



ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2014

要旨集



群馬県立自然史博物館は
国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)の
Iki・Tomo パートナーズのメンバーとして
生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組んでいます。

ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会

趣旨

群馬県には、かけがえのない生き物たちを育む自然を調べ、伝え、守る活動をされている専門機関や団体が数多くあります。

地域と密着して活動続けるこれらの方々が、互いに出会いその活動を知り合うなかでネットワークを深めるとともに、より多くに県民の方々にその取り組みをお伝えしたいとの思いから、平成20年度より報告会を開催しています。



今年度は名称を、「ぐんまの自然の『いま』を伝える報告会」と改め、県内の野生生物たちが置かれている状況や、さまざまな保護保全活動の取り組みを紹介するとともに、参加者全員で群馬の自然の「いま」を共有し、その未来を考えていきたいと思えます。

主催 群馬県

後援

群馬県自然環境調査研究会、NPO 群馬県自然保護連盟、(公財) 尾瀬保護財団、群馬野外生物学会、(公財) 日本自然保護協会、日本野鳥の会群馬、NPO ぐんま緑のインタープリター協会、群馬県野生きのこ同好会、利根沼田自然を愛する会、ヤリタナゴ調査会、かんな川水辺の楽校運営協議会、赤城姫を愛する集まり、NPO 日本チョウ類保全協会、環境カウンセラーズぐんま、特例財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、南限のサケを育む会、NPO 法人 片品・山と森の学校、群馬県緑のインタープリター会、特定非営利活動法人 ピッキオ、日本クマネットワーク、特定非営利活動法人 観音山丘陵調査、群馬ナチュラリスト自然保護協議会、NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク

(順不同)

これまでの開催：

第1回：平成21年3月 1日

第2回：平成22年2月21日

第3回：平成23年3月21日

東日本大震災（3.11）により中止。要旨集を自然史博物館HPで公開。

第4回：平成24年2月12日

群馬県野生生物調査・対策報告会として、植物・菌類分野が加わる。

第5回：平成25年2月9日

名称を、「ぐんまの自然の『いま』を伝える報告会」と変更した。

※過去の報告については、自然史博物館HPにて掲載。

URL：http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report_summary.html

第6回：平成26年2月16日

報告会の愛称募集中。大雪にて講演会は中止。

ポスター掲示を下記の期間実施した。

期間：平成26年3月15日（土）～平成26年4月19日（土）

掲示会場：自然史博物館 学習室・実験室前

第7回：平成27年2月15日

引き続き、報告会の愛称募集中。

平成28年度より、自然史フェスタ「みんなでつくる群馬の自然の展示」（仮）を計画中。

私たち人間は自然の恵みを受け、自然とともに暮らし、自然にも影響を与えながら地域の文化を育んできました。しかし、現在、自然と人間の結びつきは失われ、危機的な状況をむかえています。今、わたしたちが直面している生物多様性の危機を回避し、次世代に豊かな自然環境をつないでいくためには、群馬の自然史を時間軸の中で正しく理解することが大切です。

平成28年度より、ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会をさらに拡張し、みなさんの活動を広く一般の方々に教育普及することを目的とし、ポスター展示を1日で終わらせるのではなく、約1ヶ月のロングランで展示させていただきたいと考えています。

また、展示にあわせて、当館所蔵の資料もご活用いただき、より多くの方々の自然史に関する好奇心・探求心を刺激し、地域の生物多様性の保全への関心を高めることを目的とします。これにより、地域活動を支える新たな担い手を養成し、その担い手がさらに担い手を養成するという輪を創出していけたらと願っています。

会期：平成28年1月16日（土）～平成27年2月21日（日） 32日 月曜日休館

展示の開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）

報告会 1月17日（日）13:00～16:45

口頭発表・学習室 ポスター発表・企画展示室

目次

口頭発表

- O 1 赤城山北西麓における野生動物(シカ・イノシシ)の生態・行動調査及び侵入防護に関する研究
- O 2 リター調査からみた武尊山「水源の森」の実態～3年間の継続調査からわかったこと～
- O 3 足尾地域でのツキノワグマの春から夏にかけての採食戦略
- O 4 渡良瀬遊水地の自然環境の保全
- O 5 産卵床造成による魚類の増殖方法
- O 6 ヤリタナゴの原生息地と移植個体群の状況

ポスター発表

- P 1 リター調査からみた武尊山「水源の森」の実態～3年間の継続調査からわかったこと～
- P 2 赤城山北西麓における野生動物(シカ・イノシシ)の生態・行動調査及び侵入防護に関する研究
- P 3 榛名湖の水質調査とプランクトンの推移
- P 4 カワヒバリガイ対策研究の現状と課題について
- P 5 群馬県のセアカコケグモ発見等の“現在(いま)”
- P 6 NPO法人ぐんま緑のインタープリター協会活動紹介
- P 7 平成26年度 群馬県自然保護連盟の活動1
- P 8 平成26年度 群馬県自然保護連盟の活動2
- P 9 平成26年度 群馬県自然保護連盟の活動3
- P 10 豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために
- P 11 チョウと植物の受粉生態学的調査
- P 12 群馬県鳥類目録から見えて来た「群馬の野鳥のいま」
- P 13 群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例
- P 14 赤城山におけるヒメギフチョウ産卵数のモニタリング
- P 15 ぐんま昆虫の森におけるオオムラサキ越冬幼虫調査
- P 16 群馬県の流水性甲虫類Ⅲ
- P 17 尾瀬国立公園のアヤメ平湿原における植生回復活動について
- P 18 尾瀬のオコジョ目撃情報
- P 19 フィールドサーバを用いた鳥獣害監視システム
- P 20 カメラを利用した野生動物のモニタリング
- P 21 観音山丘陵の哺乳類生息調査
- P 22 群馬県神津牧場に生息するニホンアナグマ(*Meles meles anakuma*)の生態
- P 23 桐生自然観察の森・定点カメラモニタリング2014
- P 24 玉原高原における動物の行動時間帯分析Ⅱ報(—カメラトラップによる動物たちの行動調査報告—)
- P 25 甦るかメモリアルブナ —根付ブナ切り株の保存に挑戦—
- P 26 沼田市上発知町「玉原高原」の菌類
- P 27 日本クマネットワークによる全国規模でのツキノワグマの分布域調査
- P 28 DNA配列に基づく群馬県ツキノワグマの年度別に見た集団の違い
- P 29 堅果類の豊凶モニタリングとツキノワグマの出没との関係について
- P 30 牧場を利用するツキノワグマの実態と対策
- P 31 沼田市池田地区におけるツキノワグマによる果樹被害対策の取組
- P 32 ニホンジカから尾瀬をまもる取り組み
- P 33 リアルタイムGPS首輪によるシカの行動モニタリングについて
- P 34 赤谷プロジェクトのニホンジカの現状評価と予防的な対策について
- P 35 野生鳥獣肉の放射性物質検査結果
- P 36 野生鳥獣におけるセシウムの体内分布
- P 37 キャベツの大規模産地・嬭恋村における鳥獣被害対策
- P 38 群馬県内のニホンザルの生息状況
- P 39 ガイド＝観光サービス＋環境管理 ～NPO法人・山と森の学校の活動～
- P 40 群馬県の傷害鳥獣救護の“現在(いま)”
- P 41 ほねはおもい？ほねかるい？—鳥の標本作りで知る自然の不思議

- P42 国指定天然記念物「岩神の飛石」の起源を探るプロジェクト
- P43 南牧村での陸産貝類調査
- P44 群馬県上野村と尾瀬のニホンジカ不嗜好性植物の比較
- P45 奥多野の大型菌類調査
- P46 上野村の地表徘徊性甲虫
- P47 上野村における小型哺乳類調査その2
- P48 尾瀬で捕獲されたニホンジカの分析

資料編

- 狩猟・有害捕獲に関する状況について
- 平成25年度イノシシ有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度シカ(オス)有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度シカ(メス)有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度ニホンザル有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度カモシカ捕獲地図
- 平成25年度ツキノワグマ捕獲地図
- 平成25年度アライグマ有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度ハクビシン有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度タヌキ有害鳥獣捕獲地図
- 平成25年度カワウ有害鳥獣捕獲地図